

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	高橋 ひでとし
視察地	新潟県村上市		
調査事項	村上市スケートパークについて		
視察年月日	令和5年11月14日		
視察内容	<p>1 概要</p> <p>新潟県村上市において、同市が建設し、指定管理者として管理運営する「村上市スケートパーク」を視察した。</p> <p>2 視察の理由</p> <p>旭川市においても、現在、スケートパークの設置の必要性が指摘され、その開設をすすめているところであることから、その開設のための施設概要、施設建設のノウハウ、施設運営の手法を先行事例である村上市から学ぶことを主眼とした。</p> <p>3 私見</p> <p>(1) 調査結果に対する意見</p> <p>① 施設設置コストが高額化する見込みであることをどのようにすべきかという見地からは巨額をかける本施設同様のスケートパークを創立する必要性があるのかは疑問である。</p> <p>② 特にその後の運営上の赤字（年間約2,000万円）が恒常的に発生する可能性を考慮するとこれに対する市民の理解が得られるのか疑問である。</p> <p>③ 指導者派遣及び施設運営のために日本スケートボーディング連盟との連携が重要であるところ、その連携をどのように模索するのかという問題がある。</p> <p>④ 今後、指定管理者制度を採用し、民間活力を積極利用することであるが、いかなる団体に対し、いかなる予算でかかる制度採用をするのかにつき現在検討中とのことでその作業の困難性が予想される。</p> <p>(2) 本市における実施の可能性</p> <p>上記①乃至③について、各々の課題、問題を解決する必要があるところ、赤字財政を抱える旭川市におけるその実現可能性は困難と思料する。他方、かかる施設を利用したいと願う市民も少なくないと考えられることから、小規模程度の施設設置であればその可能性が認められると思料する。</p> <p>(3) 課題</p> <p>上記①乃至③の各課題について、その解決のため徐々に問題解決をすすめていくべきことが必要であると考えられる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	高橋 ひでとし
視察地	新潟県長岡市		
調査事項	市街地再開発事業「米百俵プレイスミライエ長岡」について		
視察年月日	令和5年11月14日		
視察内容	<p>1 概要</p> <p>新潟県長岡市において、公立図書館と創業支援及び産業創造施設の複合施設である「米百俵プレイスミライエ長岡」を視察した。</p> <p>2 視察の理由</p> <p>旭川市においても、現在、文化会館、アリーナ等の再整備と改築が検討されている。そのような状況において、他市における施設概要、施設建設のノウハウ、施設運営の手法を長岡市から学ぶことを主眼とした。</p> <p>3 私見</p> <p>(1) 調査結果に対する意見</p> <p>① 公立図書館でありながら、施設内での学習（中高生も含む）は自由、飲食も自由という開かれた図書館であるという特殊性が認められ「人やモノとの出会い」をテーマにした図書館との今後の図書館のあり方を学んだ。</p> <p>② 創業支援及び産業創造施設としては、隣接する地元銀行との連携を図りつつ、個人レベルでの創業支援施設としての機能を重視し、あえて出会いの場を設定するなどして様々な触発による産業創造を図っているのが特徴的であると感じた。</p> <p>(2) 本市における実施の可能性</p> <p>上記①②について、今後の旭川市においても大変参考になるものと思料する。型にはまらず、自由な発想と市民にとってもっとも利用しやすい公共施設としての図書館のあり方を適切に検討し、実現すべきものとする。</p> <p>また、創業支援及び産業創造施設についても、中心市街地に位置し、自由に利活用可能な図書館との融合施設という点で、その位置付けが極めて重要である。中心市街地活性化のためにも、かかる施設の旭川の中心市街地への設置を促進し、その実現を図っていくべきものとする。</p> <p>(3) 課題</p> <p>上記の問題、課題としては、財政上の相当高額化が予想される予算をどのようにして作出するかにある。この点、長岡市において、国土交通省出身の元市長が、URのまちづくり活性化施策を積極的に利活用し、相当額を国庫支出でまかなうことができたとともに、その設計等においても、事実上URが策定したとおりの内容であったとのことである。かかる手法の旭川での転用も極めて重要な要件であり、そのための同手法の調査が必要不可欠である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	経済建設常任委員会	委員名	高橋 ひでとし
視察地	東京都小金井市		
調査事項	観光振興について（現地視察：江戸東京たてもの園）		
視察年月日	令和5年11月15日、同16日		
視察内容	<p>1 概要 東京都小金井市における観光振興施策と「江戸東京たてもの園」の視察</p> <p>2 視察の理由 旭川市においても、現在、本市における主要産業としての観光振興施策が課題となっており、その具体的なあり方について、農業体験を実践できる場としての「わくわく都民農園小金井」と歴史的建造物集約施設としての「江戸東京たてもの園」をそれぞれ視察した。</p> <p>3 私見</p> <p>(1) 調査結果に対する意見</p> <p>① 土地が少なく一軒当たりの敷地面積も少ない東京都民にとっては、自ら農作物を養育し農業体験を実践できる場としての都民農園は貴重な存在であり、同農園のためにわざわざ他駅から電車での都民もいるとのことであり、重要な集客の地としての役割を感じた。</p> <p>② 歴史的建造物は、実在地で保存が極めて困難であり、そのため多くの建物が破壊されてきたとの現実がある。かかる問題を解消し、歴史的に重要な建造物について、移築の上で修繕を施し、観光資源として利活用することは重要な手法であるものと考えられた。</p> <p>(2) 本市における実施の可能性</p> <p>本市においても少なからずの歴史的建造物が市内に点在しており、これら各建造物の保存等が重要であるにもかかわらず、その修繕費用等の高額なことからほとんどの建造物が破壊の方向で検討されてきたとの問題があった。しかしながら、北海道、特に旭川市における歴史的建造物は、明治大正期における西洋建築のモダン性と旧来の和風建築との融合が図れた非常に興味深い建物も存在しており、遠い将来の旭川市の観光を考えたとき、その保存を検討し、そのための財源確保の手法を学ぶことが必要不可欠であると考えられる。</p> <p>(3) 課題</p> <p>以上の通り、旭川市内の歴史的建造物の保存の必要性を再認識し、安易に破壊を助長する流れをとめて真摯にその保存を検討していくべきである。ただし、予算としては、移築のために数億円、修繕のためにさらに数億円かかるとの現実を踏まえ、東京都同様、修繕費用等を指定管理者委託料とは別に北海道及び旭川市が負担するなどの方策を積極的に採用していくべきである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。